

《寒川町営プール》

1. 施設の概要

○施設

- ・ 50メートルプール
- ・ 25メートル（屋根付き）プール
- ・ 幼児プール
- ・ ウォータースライダー
- ・ 管理棟

○開設

昭和60（1985）年4月1日

○開場期間

7月第3土曜日～8月31日 午前9時～午後4時30分

○運営体制

平成18年度から指定管理者による営業

現指定管理者：三幸・グランデリア共同体（平成24年度～平成28年度）

2. 利用者の推移

年 度	利用人数	入場料
昭和60	76,158	12,883,400
昭和61	76,045	13,012,800
昭和62	73,530	12,529,300
昭和63	55,887	9,396,500
平成元	60,885	10,181,300
平成2	62,465	10,655,500
平成3	41,900	7,109,600
平成4	46,066	7,886,000
平成5	28,897	4,848,800
平成6	42,723	7,374,700
平成7	42,816	6,607,400
平成8	30,224	4,502,300
平成9	34,844	5,315,800
平成10	26,665	4,036,900

年 度	利用人数	入場料
平成11	32,496	4,960,000
平成12	35,675	5,476,000
平成13	28,479	4,338,600
平成14	31,537	4,872,900
平成15	21,723	3,171,600
平成16	25,814	3,892,400
平成17	25,021	3,715,400
平成18	21,623	3,179,600
平成19	25,029	3,750,900
平成20	26,380	3,980,800
平成21	22,989	3,400,300
平成22	23,569	3,474,500
平成23	17,645	2,541,700
平成24	19,722	2,649,500

3. 現況

昭和60年に開設してから28年が経過し、毎年夏季開場前にプール槽の塗装修繕をしなければならない状況や平成22年から25メートル（屋根付き）プールの開場を休止するなど、老朽化が著しく進んでいる。

4. 考えられる今後の方向性

【case 1】

○必要最小限の修繕を行い、現施設での運営を継続

- メリット：必要最小限の費用負担
- デメリット：場当たりの修繕だけでは、根本的な課題が解決できない
入場者、入場料の大幅な増加が見込めない

【case 2】

○現施設を閉鎖し、代替えとして学校プールを夏季（夏休み期間）限定で開放

- メリット：施設が分散することで、身近になる
メンテナンスが学校関連の事業費と共有できる
- デメリット：幼児向けの対応が困難
開放プール数によっては、事業費が増加する
学校施設としての管理上の問題

【case 3】

○現施設を閉鎖し、民間施設利用の助成を実施

- メリット：利用目的にあった施設が選択できる
- デメリット：助成方法によっては、事業費と事務の負担が増加する
子ども同士で気軽に利用できない

【case 4】

○大規模改修を行い、現施設と同等の夏季限定の屋外施設としてリニューアル

- メリット：子ども同士で気軽に利用できる
- デメリット：利用者が子ども中心となり、また夏季限定の娯楽施設となってしまう、利用者が限定される

【case 5】

○大規模改修を行い、通年型の屋内プールを建設

- メリット：指定管理者制度を有効に活用し、健康増進に結びつける事業展開が容易になる
- デメリット：利用者が成人中心となり、子どもらしい遊びの要素が無くなる
ことが考えられる